

大学研究者から見た研究セキュリティ

塩見淳一郎

東京大学大学院工学系研究科・教授

<https://www.phonon.t.u-tokyo.ac.jp/>

Junichiro Shiomi @ The University of Tokyo, School of Engineering

➤ International group:



➤ International collaboration:

Eg: JST-ASPIRE: KTH (Sweden), Rice U(USA), Heidelberg U (Germany), Kyoto U, Tokyo Metropolitan U, Riken, AIST

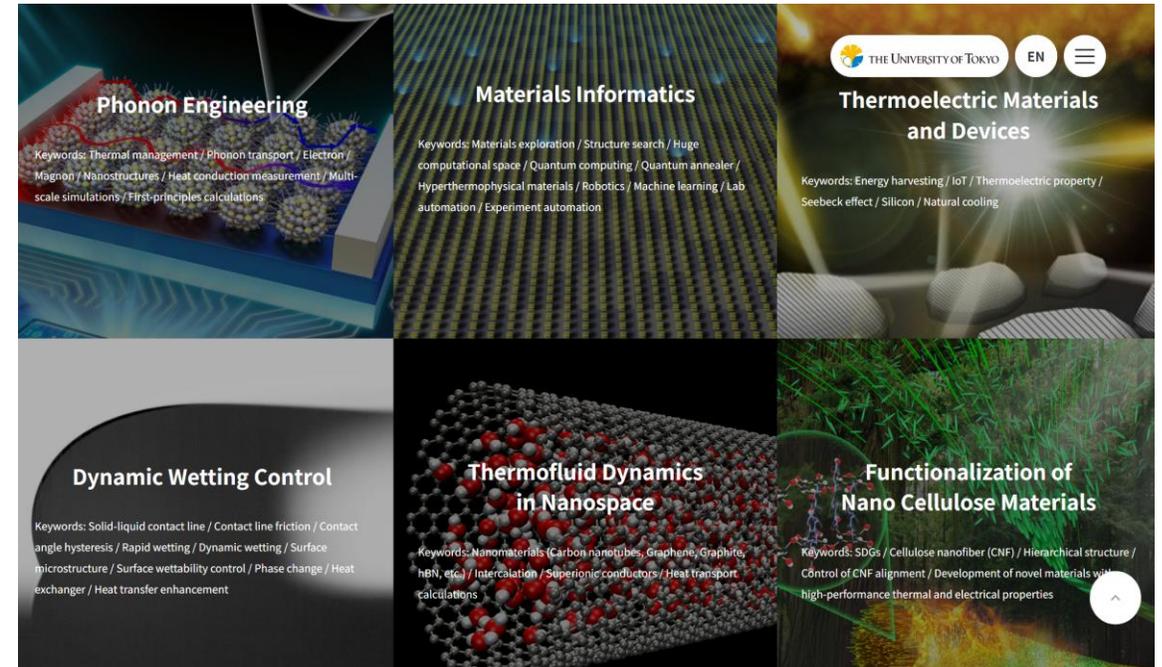
➤ Industrial collaboration:

> 5 companies (1 foreign)



➤ Start-up company:

➤ Variety of research topics



Including: new materials, semiconductor packaging.

➤ My core interest today:

How do we understand and manage the risk to continue open basic research?

研究セキュリティについて：大学研究者の立場から

- 国際研究のモチベーション
 - 学術研究は本来、国際的に交流・共同して発展するもの
 - 国際的な環境での教育・研究が日本人学生を成長させることを実感
 - 国際的な研究コミュニティにおける日本のプレゼンスの低下が示される中で、国際連携は欠かせない
 - 少子化が進む日本においては、優秀な留学生に来てもらう(そして定着してもらう)ことが、大学の研究力(と日本の産業や経済)の発展に必要な
- 現状の対応
 - 安全保障輸出管理手続き(許可申請、該否判定)(東京大学・安全保障輸出管理支援室)
 - 個々の心配な案件について支援室に相談
 - 産学連携については個別に連携企業の意向をヒアリング
- 懸念点
 - 過度な規制による研究力の低下
 - 作業の負担(精度と負担のバランス)
 - 研究者目線での実効性(研究者のウェアアネスとコンセンサス)
 - 他国との認識の相違